校長だより　向日葵　　１２月２３日　廣渡一郎

◆◇◆風の色　その２◆◇◆

■１１月に紹介した詩「風の色」の授業。今日は「冬」のところのようすを紹介します。

冬の風は すきとおった白　［　　］と あくしゅしたから

しかくの中にどんな言葉がかくれているかな，というめあてで授業はすすみます。
「雪だと考えます。季節が冬だからです」
「私も雪だと考えます。わけは，色が白と書いてあるからです」
「私は氷だと思います。白は白でもすきとおった白だからです」
「あくしゅ，と書いてあるから私は雪だるまだと考えます。
　木で手をつくるからあくしゅできるからです」
「でも，雪だるまはすきとおってないから反対です」

■教室は「雪」と「氷」の二つの考えに割れて話し合いがすすみます。
「あく手ができる氷が答えじゃない？」「そんな氷ってあるかな？」
「分かった！　霜柱だ！」「霜柱って何？」
「霜柱も知らんと？　ぼくが教えちゃる」
絵を描いて説明をしようと意気揚々と前に出てきたＡ君。
黒板に大きく屋根の絵を描き始めます。
？？？…
屋根の下に三角のかたちを描いたＡ君に，
「Ａ君，それつららやん」とつっこむ子どもたち。
教室は笑いに包まれました。
ところが。
「先生，あくしゅできる氷ってつららやない？」
「うん，つららやん…」「本当だ，つららやん！」
しいんとなっていた教室のあちこちから，つぶやきが聞こえ始めます。
かくしていた詩の言葉は「軒下のつらら」。
子どもたちの感性と力に改めてびっくり，感心したことを思い出しています。

明日から冬休み。
次に子どもたちの笑顔と健康な声が戻ってくるのは１月１０日。
それまでしばらく「向日葵」も冬休み。
時間をつくって読んでいただき，有難うございます。
よいお年をお迎えください。